

2012. 6. 24 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2012年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

## I. 「旧約聖書のホーリネス」(イザヤの聖め)

テキスト：

「彼は、私の口に触れて言った。『見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。』」  
(イザヤ書 6:7)

■グレイトハウス博士：ナザレン神学校学長、ナザレン教団総監督などを歴任

■本書の目的：神が聖であること、私たちも神に似たものとなる可能性があることを示す

### A. ホーリネスに関する聖書の用語

旧約における「聖なる」「聖さ」「聖化」などは、「コーデシュ」という語根から来ている。その語義は「分離」である。その段階は：

1. 恐れや畏怖の感情：絶対他者なる神への恐れ、畏怖。自分とは隔離された、超越的な存在としての神への恐れ(出エジプト 19:9-24)
2. 祭儀的な聖さ：神への奉仕、神の所有物として捧げられたもの
3. 倫理的な聖さ：神の聖さに与る者となること

## B. 神のホーリネス

神のホーリネスとは、神のご性質の一つというよりも、神の実体である

1. 分離としてのホーリネス：被造物である人間とは、全く隔絶したお方として存在する(アモス 4:2、イザヤ 43:11)
2. 栄光としてのホーリネス：人間が見ることのできない神であるが、その輝きを見ることができる(出エジプト 33:18-23)
3. 純粹さとしてのホーリネス：人間の汚れと対比しての倫理的聖さ。神殿での幻を通して神のホーリネスに触れたのがイザヤである(6章)。彼は、「聖化する」行動的な神のホーリネスを経験し、神の聖を生涯的メッセージとして宣べ伝えた。

## C. 神のホーリネスの表現

1. 神の変わらざる愛(ヘセド)：契約に基づき、相手の態度によっても変わらずに示し続ける愛
2. 神の義と正義：神の義は、その民を造り、保ち、救う行動によって、また、弱者を助ける具体的行動などに表れる
3. ホーリネスの戒め：食物の規定などは、神のホーリネスを思い出させるためのものである。私たちは、律法主義に陥らず、神の愛に倣う者となる必要がある。